

2017年1月16日(月) ハコラク2月号 掲載

医療の現場から『経験度100%?一番身近な臨床検査は「尿検査」』

検査科 藤澤 浩史 技師長

医療の現場から

経験度100%? 一番身近な臨床検査は 「尿検査」

函館中央病院 検査科

技師長 臨床検査技師 **藤澤 浩史** さん



小学校から高校まで、毎年春に学校から「検尿カップ」と「尿スピッツ(試験管)」を渡されたことを皆さん覚えていらっしゃるでしょうか?それは「学校検尿」と呼ばれるものです。病院へ行き「尿を取ってきて下さい」とカップを渡されて思い出す方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

「尿検査」は誰もが経験している一番身近な臨床検査です。では「尿」からいったいどれだけのことがわかるのでしょうか?膀胱炎や腎盂炎、糖尿病などはイメージしやすいでしょうが、妊娠しているかどうかも尿でわかります。尿の中の成分を検査することで、腎臓や尿路系の病気を

を疑うことができます。患者さんから採取された尿は体内情報の宝庫であり、臨床検査技師が検査機器や顕微鏡を用いて情報をくまなく拾い上げて医師に伝えることで、診断と治療の一端を担っています。

では、実際にどのように情報を拾い上げるのかを簡単に説明します。まず検尿カップから尿をスピッツに移し替えて、その中に「蛋白」や「糖」、「潜血」などを調べる試験紙を浸します。試験紙が変色しなければ陰性(一)ですが、変色した場合はその色調の変化で陽性の度合い(±)〜(+++)を判定しています。陽性に出たときは、スピッツを検査機器にセットし高速で回転させて、尿の成分をスピッツの底に沈めます。それをスポイトですくいガラスに乗せ、顕微鏡で赤血球や白血球、細胞などを観察します。そしてその種類や数について医師に報告します。時には細菌や結晶などを認めることや、動いている原虫に出合うこともあります。

臨床検査では「尿」や「血液」などを「検体」と呼びます。検査室の業務は患者様の目に触れる機会は少ないですが、臨床検査技師は「検体」を通していつも患者様と向き合っています。



函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代) <http://www.chubyo.com/>

■診療科目/内科、消化器内科、腫瘍内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、
心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など全24科目
■受付時間/8:30~11:30、13:30~16:00※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。
■休診日/日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)